

【授業研究2】 中学校第3学年「故郷」

(1) 授業研究にあたって

「見通しをもって読み解く国語科指導法」の主題に基づき、中学校では、見通しとしてのめあて意識をもつ手だてとして、生徒自身の興味・関心を生かした学習課題作りを取り入れた。学習課題作りにおいては、内容理解を図った上での学習課題作りと初発の感想を生かしての学習課題作りの実践を試みた。読み解くカギとしては、人物描写の対比を中心に情景描写からも心情を読み取るような支援を考えた。また、生徒が関心を示すだろうと予想される語句なども、読み解くカギとしてつかむことができるようにした。次はその学習指導案である。

第3学年 国語科学習指導案

- 1 単元(教材) 状況に生きる(故郷)
- 2 目標 (省略)
- 3 単元について(省略)
- 4 指導計画(9時間取扱い)

第1次 全文を通読し課題を設定する。

第1時 今までの学習経験をもとに、「故郷」をどう読み解いていくか話し合い、学習の計画を立てる。

第2時 全文を通読し、あらすじをとらえる。

第3時 初発の感想をもとに学習課題を設定し、学習の見通しをまとめる。

第2次 学習課題の追究(グループ学習を中心として)

第1時 20年ぶりの故郷の様子を読み取る。

第2時 故郷の人々の変化が、どう表現されているか読み取る。(本時)

第3時 故郷を去る「わたし」の心境を読み取る。

第4時 グループごとに追究したことを発表し、話し合う。

第5時 グループごとに追究したことを発表し、話し合う。

第3次 主題をまとめ、感想を書く。

5 本時の指導

- (1) 目標 故郷の人々の変化がどう表現されているかを読み取り、それぞれの人物像をとらえ、感想をまとめることができる。
- (2) 準備・資料 教科書・ノート・国語辞典・課題提示カード
- (3) 展開

※は評価

学 習 活 動	教 師 の 支 援 ・ 評 価
<p>1 本時の学習課題について話し合い、見通しをまとめる。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">故郷の人々の変化を読み取り、感想をまとめよう。</p> <p><選択課題></p> <p>a 少年ルトウとわたし b ヤンお婆さんの今と昔 c 再会したルトウとわたし d ルントウの今と昔</p> <p>2 それぞれの課題についてグループごとに追究する。 (a～dの中から一つ選択)</p> <p>(1) 課題追究に必要な部分をグループ内で音読し、大事な表現をまとめる。</p> <p>(2) 課題追究をする。</p> <p>a 少年ルトウとわたし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・我が家の状況とルトウのおかれていた状況 ・ルトウの少年らしい生き生きした生活ぶり ・二人のつながり <p>b ヤンお婆さんの今と昔</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今 ほお骨の出た五十がらみの女、コンパス ・昔 豆腐屋小町、おしろい、ふくよか <p>c 再会したルトウとわたし</p> <ul style="list-style-type: none"> ・変わり方はた姿 ・何も言えない「わたし」 ・ホルとシュイシヨンの関係 <p>d ルントウの今と昔</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今 深いしわ、古ぼけた毛織りの帽子、でくのぼう ・昔 つやのいい丸顔、小さな毛織りの帽子、すいか畑の小英雄 <p>3 本時の学習を振り返り、次時の学習を話し合う。</p> <p>(1) 本時の学習について、自己評価する。</p> <p>(2) 次時の学習内容について話し合う。</p> <p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">故郷を去る「わたし」の心境を読み取ろう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとの課題にそって、a～dの中から一つの課題を選択し、まとめの発表をすることを確認して学習の見通しをまとめ、学習意欲を高めたい。 ・時間に余裕のある場合は、二つ目の課題について追究してもよいことを助言する。 ・人物像をとらえることは、外見・性格・考え方などをつかむことであることと課題を追究する手掛かりを助言する。 <p style="text-align: center;">課題追究の仕方(a～d共通)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな人物として描かれているか、根拠となる表現を押さえる。 ・なぜ変化したのかを押さえる。 ・それぞれの人物について感想をまとめる。 <p style="text-align: center;">グループ学習の教師のはたらきかけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どのようなやりかたで読み解いているか。グループ間の情報交換をし、さらに、意欲の喚起を図る。 ・読み解きの手順のよいグループのやり方を紹介する。 ・読み解きの手順がうまくいかないグループには、具体的な作業内容を示唆する。 ・意欲の乏しい生徒には、課題について簡単な質問のやりとりをする。 ・選択した課題について追究の終わったグループには、二つ目の課題に取り組むよう助言する。 <p>※グループごとに課題を選択し、表現に即してそれぞれの人物像をとらえることができたか。また、その人物や人物の変化に対して感想をもつことができたか。(話し合い、読み解きのまとめ)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本時の学習内容を自己評価カードによって振り返ることにより、次時への意欲づけとしたい。 ・次時の課題を確認し、学習の見通しをまとめるようにしたい。

(2) 見通しとしての学習課題作り

生徒が自分自身の興味・関心に支えられた問題意識をもちながら読み進めることは、文章を読んでいこうとするときの推進力となるものである。この問題意識を読みの柱として練り上げ、自分たちの考えた方法で解決していくことは、見通しをもって読む一つの方法である。生徒自身の問題意識を高め、読み解くカギをもって読みの見通しが立てられるように支援すれば、生徒は主体的に文章を読んでいくと考える。このような考えから、学習課題作りを学習計画に位置付けた。

ア 内容理解を図った上での学習課題作り

学習課題作りをする場合、内容理解の浅い段階で教材の最後まで読み通すだけの学習課題を作ることは難しいのではないかという心配もある。そこで、ある程度の内容理解を図りながら学習課題を作ることを試みた。

学習課題作りをする前に、文章がよく読めることと大体的内容を理解することをねらいとして、音読練習を取り入れた。音読練習は、場面を区切って、教師の範読→生徒各自の音読練習→一斉音読を繰り返した。一斉音読の後、簡単な質問のやりとりによって、文章の大体的内容を確認した。確認した主な内容は、人物関係、事件の進行、場面の変化、時間や空間の関係、描写の意義などである。

続いて、大まかに作品全体を把握させることをねらいとして、登場人物の関係と作品の構成を理解する活動をした。この活動は、短時間でできるように、ワークシートを利用してまとめた。作品の登場人物をすべて挙げ、主な登場人物の関係を文図にまとめた。文図にまとめるにあたっては、世代の違いや「わたし」の側の人物とレントウ側の人物を対比的にとらえられるように配慮した。次に、作品の構成の理解を図るために、場面を五つに分け、各場面を短い言葉で名付けをしてまとめた。また、場面の時間（現在、過去）も確認して、作品の本質を踏まえた学習課題作りをするための布石とした。

作品全体の構成を理解した上で学習課題作りの活動に入った。さらに追究してみたい登場人物を挙げたところ、わたし、レントウ、ヤンおばさんに集中した。生徒の感想を聞いてみると、人物の大きな変化に驚いたという。感想の内容を人物の変化に着目し、その違いを対比するという観点から整理して、次の五つの点をもとに学習課題を設定した。

- ・レントウの今と昔の変化を読み取ろう。
- ・ヤンおばさんの今と昔の変化を読み取ろう。
- ・レントウとわたしの少年時代の様子を読み取ろう。
- ・再会した時のレントウとわたしの心情を読み取ろう。
- ・故郷を去るわたしの心境を読み取ろう。

イ 初発の感想を生かしての学習課題作り

全文通読（教師範読）の後、ワークシートを使って黙読しながら、あらすじをとらえる。その際、疑問に思ったことや表現の分からないところ、もっと詳しく読み取りたいところなどがあれば、教科書に線を引いて、次の初発の感想をまとめる参考になるようにした。

初発の感想は、疑問点や深く読み取りたいことなどを含めて、課題作りの資料にした。生徒の書いた感想に次のようなものがある。

わたしとレントウが再会した場面が印象に残った。お互いに会えてとてもうれしいはずなのに、身分の差というか、そんなのが二人の間を隔ててしまって、子供のころは兄

弟みたいに仲がよかったのに、そんな他人行儀になってしまうなんて、なんだか悲しいことだなあと考えた。

この初発の感想には、作品の主題に迫るような読みがうかがえる。以後の学習課題作りにおいて、これらの鋭い読みを活用して生徒の学習を大事にしていくように努めた。また、「悲しむべき厚い壁」というような作品中の比喩的な表現の意味するものを追究していくときの参考にしたり、読み解きを支援する資料としたりして活用した。

ウ グループから全体での共通学習課題作り

初発の感想をもとに、グループで話し合って学習課題を設定する。話し合いの活動を通して、一人一人がいただいた問題意識を精選し、学習課題として作り上げるのである。学習課題を作りやすくするため、場面を帰郷、故郷に滞在・離郷の3場面に分けておき、それぞれの場面ごとに初発の感想を生かしながら学習課題を設定した。大半のグループでは、作品の視点にそった「わたし」に課題が集中した。あるグループでは、次のような学習課題を設定した。

- ・帰郷の場面 故郷に近づくにつれてのわたしの心情を読み取ろう。
- ・故郷に滞在の場面 わたしとルントウが再会した時の二人の心情を読み取ろう。
- ・離郷の場面 故郷を去るわたしの心情を読み取ろう。

グループで作った学習課題をもとに全体で話し合い、共通学習課題を設定する。各グループで作った学習課題を板書し、それをもとに話し合い、共通学習課題を設定した。全体では次のような学習課題を設定した。故郷に滞在の場面では、次のように四つの学習課題に細分化した。

- ・帰郷の場面 二十年ぶりの故郷の様子とわたしの心情を読み取ろう。
- ・故郷に滞在の場面 故郷の人々の変化とわたしの心情を読み取ろう。
少年ルントウとわたし 再会したルントウとわたし
ヤンお婆さんの今と昔 ルントウの今と昔
- ・離郷の場面 故郷を去るわたしの心情を読み取ろう。

帰郷と離郷の場面の課題は、学級全体で追究することとし、故郷に滞在の場面の学習課題はグループの選択とし、グループごとに追究することにした。

(3) 学習課題の追究

ア 主体的に読み解くためのグループ学習への支援

(ア) 見通しをもって読み解く支援（リーダーへの事前の支援）

毎時間の学習終了後、必ず次時の学習課題について確認した。さらに、学習課題追究のためのグループ学習の柱立てを行い、次時の学習活動の見通しをもつことができるように助言した。例えば、学習指導案の第2次の2時の前に行った支援としては、生徒たちが追究する選択学習課題、追究の仕方、学習課題追究に必要な部分などを確認し、大まかな見通しをもつことができるように助言した。このとき、助言が細かくなり過ぎて、生徒の興味・関心が半減してしまわないように留意して支援した。

(イ) 読み解くカギをつかむための支援

自分たちで立てた学習課題を追究していく際に、どのような読み解くカギをもって読んでいくかが具体的にできれば、生徒は読んでいこうとする意欲をもって学習する。この教材では、読み解くカギを生徒と話し合っ、次のようにまとめた。

- ・根拠となる表現を押さえる。（文章表現から離れず、文章に即して読む。）

- ・対比してとらえる。(わたしとルントウを中心にして、変化したものとしないうものにまとめて比べる。)
- ・なぜ変化したのかをおさえる。(変化した事実だけにとどまらず、変化した原因をとらえて、作品の主題に迫れるようにする。)
- ・人物像をとらえる。(人物と情景の描写から人物像をとらえ、心情を読み取る。)
- ・語句の意味をとらえる。(だんな様、悲しむべき厚い壁、道、新しい生活等)

読み解くカギについては、初発の感想から疑問や感想の中心として出されたものをカギとしてとらえていくよう助言した。

イ グループごとの共通学習課題の追究

学習課題の追究に際しては、共通学習課題を各グループごとに追究する時間と、共通学習課題の中から細かく分けた学習課題を各グループごとに選択して追究する時間と、二つの学習方法を取り入れた。同一の学習課題をすべてのグループが追究した例を資料4に示したが、この部分は、情景描写から「わたし」の心情を読み取る場面である。生徒の読み解きとして、登場人物の言動に重点がいく傾向にあるので、情景描写にこめられた「わたし」の心情を追究するような読み解きには教師の支援が必要である。この場合も、情景を描写した表現から、ほかにどんなことが読み取れるだろうかと問いかけて、生徒が気付くことができるように支援した。

資料4 共通課題の追究のまとめ

上ハ 到王
 八 学習課題
 二十年ぶりの故郷の様子と「わたし」の心情を
 読みとる。

◎ 故郷の様子

・もう冬の像であった。
 ・故郷に近づくにつれて空模様は怪しくなり、冷たい風がヒューヒュー音を立てて、船の中で吹きこんできた。
 ・わかちい村々がいささかの活気もなくあちこちに様だわっていった。

◎ 普通、故郷といたって活気があった、明るい感じの場所だと思っていたけれど、すごく寂しい感じがした。

◎ わたしの心情

・ああ、これが二十年来片時も忘れかけたことなのだった。故郷であらうか。
 ・覚えな寂寥の感が胸にこみあげた。
 ・ふうふうの音に言進歩もなにかわりわたしの感じ方のような寂寥もありはしない。そう感じるのはわたし的心境が変わっただけだ。

「あゝ」といふ言葉にわたしの寂しい気持ちやなつかしい気持ちがかこめられていたと思う。それに今度の降知は故郷に別れを告ぐにきたのだからよけいに寂しいんだと思つた。

◎ この学習課題で大事なところは故郷の風景にあるのではなないだろうか。

わたしは寂しい気持ちか風景の中にこめられている。

ウ グループごとで選択学習課題の追究

前述したように、読み解きの過程に学習課題を選択する時間を設定した。ここでは、学習課題を設定する過程で作ったグループごとの学習課題をそのまま追究する学習の時間にあてた。これは、次の二つの理由による。まず、生徒自身の話し合いで設定したという問題意識を強くもたせて、読み解きの学習につなげたいということである。次に、学習活動に新鮮さをもたせたいとい

う意図からである。共通学習課題を全員で追究する方法と、ここで試みたように学習課題を選択して追究する方法を組み合わせることで、学習の展開に変化をもたせることができるであろう。

グループごとに学習課題を追究した学習活動例を示すと次のようになる。

- ・学習課題追究に必要な部分の音読。(リーダーがあらかじめ押さえておいた部分を輪読)
- ・ヤンおばさんの外見の比較。(容姿や行動を皆が押さえ活発に意見を交換、表にまとめて対比する。)
- ・変わったのは外見だけではないという意見から、内面についても考えようと提案があり、また、新たに話合いが始まる。
- ・なぜ変わってしまったのかについて話し合う。(今と昔のあまりの変わりように4人も真剣に考え、活発に意見の交換をする。)

資料5 選択学習課題の追究のまとめ

まじ 身いの。お人昔時ヤン で分る空はばの代ンお 初より空ののののの 産のありののののの 大の思うはのののの しての思うはのののの しまの思うはのののの たの思うはのののの しいの思うはのののの 暮らしの思うはのののの しがの思うはのののの 人間を、これほど	① 打バ ② ン ③ ン ④ ン ⑤ ン ⑥ ン ⑦ ン ⑧ ン ⑨ ン ⑩ ン ⑪ ン ⑫ ン ⑬ ン ⑭ ン ⑮ ン ⑯ ン ⑰ ン ⑱ ン ⑲ ン ⑳ ン ㉑ ン ㉒ ン ㉓ ン ㉔ ン ㉕ ン ㉖ ン ㉗ ン ㉘ ン ㉙ ン ㉚ ン ㉛ ン ㉜ ン ㉝ ン ㉞ ン ㉟ ン ㊱ ン ㊲ ン ㊳ ン ㊴ ン ㊵ ン ㊶ ン ㊷ ン ㊸ ン ㊹ ン ㊺ ン ㊻ ン ㊼ ン ㊽ ン ㊾ ン ㊿ ン	① 内 ② 情 ③ 情 ④ 情 ⑤ 情 ⑥ 情 ⑦ 情 ⑧ 情 ⑨ 情 ⑩ 情 ⑪ 情 ⑫ 情 ⑬ 情 ⑭ 情 ⑮ 情 ⑯ 情 ⑰ 情 ⑱ 情 ⑲ 情 ⑳ 情 ㉑ 情 ㉒ 情 ㉓ 情 ㉔ 情 ㉕ 情 ㉖ 情 ㉗ 情 ㉘ 情 ㉙ 情 ㉚ 情 ㉛ 情 ㉜ 情 ㉝ 情 ㉞ 情 ㉟ 情 ㊱ 情 ㊲ 情 ㊳ 情 ㊴ 情 ㊵ 情 ㊶ 情 ㊷ 情 ㊸ 情 ㊹ 情 ㊺ 情 ㊻ 情 ㊼ 情 ㊽ 情 ㊾ 情 ㊿ 情	① 外 ② 外 ③ 外 ④ 外 ⑤ 外 ⑥ 外 ⑦ 外 ⑧ 外 ⑨ 外 ⑩ 外 ⑪ 外 ⑫ 外 ⑬ 外 ⑭ 外 ⑮ 外 ⑯ 外 ⑰ 外 ⑱ 外 ⑲ 外 ⑳ 外 ㉑ 外 ㉒ 外 ㉓ 外 ㉔ 外 ㉕ 外 ㉖ 外 ㉗ 外 ㉘ 外 ㉙ 外 ㉚ 外 ㉛ 外 ㉜ 外 ㉝ 外 ㉞ 外 ㉟ 外 ㊱ 外 ㊲ 外 ㊳ 外 ㊴ 外 ㊵ 外 ㊶ 外 ㊷ 外 ㊸ 外 ㊹ 外 ㊺ 外 ㊻ 外 ㊼ 外 ㊽ 外 ㊾ 外 ㊿ 外	八 到 班
	① 女 ② 女 ③ 女 ④ 女 ⑤ 女 ⑥ 女 ⑦ 女 ⑧ 女 ⑨ 女 ⑩ 女 ⑪ 女 ⑫ 女 ⑬ 女 ⑭ 女 ⑮ 女 ⑯ 女 ⑰ 女 ⑱ 女 ⑲ 女 ⑳ 女 ㉑ 女 ㉒ 女 ㉓ 女 ㉔ 女 ㉕ 女 ㉖ 女 ㉗ 女 ㉘ 女 ㉙ 女 ㉚ 女 ㉛ 女 ㉜ 女 ㉝ 女 ㉞ 女 ㉟ 女 ㊱ 女 ㊲ 女 ㊳ 女 ㊴ 女 ㊵ 女 ㊶ 女 ㊷ 女 ㊸ 女 ㊹ 女 ㊺ 女 ㊻ 女 ㊼ 女 ㊽ 女 ㊾ 女 ㊿ 女	① 女 ② 女 ③ 女 ④ 女 ⑤ 女 ⑥ 女 ⑦ 女 ⑧ 女 ⑨ 女 ⑩ 女 ⑪ 女 ⑫ 女 ⑬ 女 ⑭ 女 ⑮ 女 ⑯ 女 ⑰ 女 ⑱ 女 ⑲ 女 ⑳ 女 ㉑ 女 ㉒ 女 ㉓ 女 ㉔ 女 ㉕ 女 ㉖ 女 ㉗ 女 ㉘ 女 ㉙ 女 ㉚ 女 ㉛ 女 ㉜ 女 ㉝ 女 ㉞ 女 ㉟ 女 ㊱ 女 ㊲ 女 ㊳ 女 ㊴ 女 ㊵ 女 ㊶ 女 ㊷ 女 ㊸ 女 ㊹ 女 ㊺ 女 ㊻ 女 ㊼ 女 ㊽ 女 ㊾ 女 ㊿ 女	① 女 ② 女 ③ 女 ④ 女 ⑤ 女 ⑥ 女 ⑦ 女 ⑧ 女 ⑨ 女 ⑩ 女 ⑪ 女 ⑫ 女 ⑬ 女 ⑭ 女 ⑮ 女 ⑯ 女 ⑰ 女 ⑱ 女 ⑲ 女 ⑳ 女 ㉑ 女 ㉒ 女 ㉓ 女 ㉔ 女 ㉕ 女 ㉖ 女 ㉗ 女 ㉘ 女 ㉙ 女 ㉚ 女 ㉛ 女 ㉜ 女 ㉝ 女 ㉞ 女 ㉟ 女 ㊱ 女 ㊲ 女 ㊳ 女 ㊴ 女 ㊵ 女 ㊶ 女 ㊷ 女 ㊸ 女 ㊹ 女 ㊺ 女 ㊻ 女 ㊼ 女 ㊽ 女 ㊾ 女 ㊿ 女	① 女 ② 女 ③ 女 ④ 女 ⑤ 女 ⑥ 女 ⑦ 女 ⑧ 女 ⑨ 女 ⑩ 女 ⑪ 女 ⑫ 女 ⑬ 女 ⑭ 女 ⑮ 女 ⑯ 女 ⑰ 女 ⑱ 女 ⑲ 女 ⑳ 女 ㉑ 女 ㉒ 女 ㉓ 女 ㉔ 女 ㉕ 女 ㉖ 女 ㉗ 女 ㉘ 女 ㉙ 女 ㉚ 女 ㉛ 女 ㉜ 女 ㉝ 女 ㉞ 女 ㉟ 女 ㊱ 女 ㊲ 女 ㊳ 女 ㊴ 女 ㊵ 女 ㊶ 女 ㊷ 女 ㊸ 女 ㊹ 女 ㊺ 女 ㊻ 女 ㊼ 女 ㊽ 女 ㊾ 女 ㊿ 女

(4) 考 察

見通しをもって読む一つの方法として、学習課題作りを学習計画に位置付けて実践した。学習課題作りの過程では、教材の内容を大まかにとらえてから学習課題を作る過程と初発の感想を生かしながら学習課題を作る過程と二つの方法で実践してみた。どちらの場合も、グループによる学習課題作りをしたがそれぞれの話合いを通して、作品の本質にせまる学習課題が作れた。学習課題作りも含めて、生徒自身の最初の読みを生かす指導をもっと積極的に取り入れてよいのではないかと考える。生徒の自己評価カードによると、学習課題を作ることによって教材全体を見通すことができ、意欲的に学習課題を追究しようという姿勢に結び付いた。

読み解きは、グループの話合い活動を中心に進めた。追究していく学習課題は、共通のものとグループ選択のものと二つの方法で実践した。生徒は、初発の感想や疑問から読み解くカギを対比、人物描写、情景描写、語句にとらえて、意欲的に学習に取り組んだ。

このように、生徒自身の問題意識を大事にしながら課題を作り、読み解くカギをもつことは読みの見通しが立つことになり、意欲的な学習態度につながる事が明らかになった。